

3 重点地区の再生計画

保土ヶ谷駅西口商店街

コンセプト:旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成

空間・デザインの考え方

- ・継承されてきた道幅を活かした安全な交通空間づくり
- ・西口商店街と駅、今井川沿いの空間をつなぐ周遊動線づくり
- ・サイン環境の検討

機能導入の考え方

- ・イベントスペースの維持・拡充
- ・憩いの環境づくり
- ・商店街利用者の利便性向上

イベント時のイメージ



天王町駅周辺

コンセプト:保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一体的な空間づくり

空間・デザインの考え方

- ・高架下から駅前空間、公園までの一体的な空間づくり
- ・旧東海道の道筋と旧帷子川の川筋の明確化
- ・地域等による活用が風情を生み出す広場創出

機能導入の考え方

- ・官民連携による多様なまち歩きを支援する情報発信拠点
- ・まちの様々な人が集い憩える居場所づくり

駅舎側から見た駅前空間のイメージ



保土ヶ谷駅西口駅前周辺

コンセプト:保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり

空間・デザインの考え方

- ・エリアの顔、まち歩きの起点に相応しい駅前空間形成
- ・舗装等を活かした駅前広場から旧東海道のつながりの強化
- ・安全で利用しやすい交通施設の再配置

機能導入の考え方

- ・保土ヶ谷宿周辺エリアの情報発信・案内機能の強化
- ・滞留空間を活用した地域活動の活性化

駅舎前から見た駅前広場のイメージ



保土ヶ谷小学校跡地

コンセプト:保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広げる拠点機能の醸成

空間・デザインの考え方

- ・旧東海道からの見え方にも配慮した、歴史と文化を感じさせる落ち着いた風格のある外観
- ・多様な来訪者が円滑に利用できる動線計画
- ・地形や風景を生かした自然を身近に感じることが出来る空間づくり

天王町駅高架下・沿道

天王町エリアの賑わいをつなげ、広げるネットワーク空間づくり

天王町商店街・洪福寺松原商店街

地域の日常生活の拠点となる賑わいの空間づくり

4 実現に向けて

1)事業や補修整備等の連鎖による道筋再生の実現

- ・関連事業整備のほか、道路の舗装の更新や修繕時期に合わせた整備により、旧東海道の道筋の連続性強化 等

2)地域や民間事業者と協働したより魅力的で発展的な拠点の実現

- ・人と歴史や地域をつなぐ、日常的に地域住民が利用する拠点 等

3)関係者との十分な調整と継続的な取組みの実施

- ・今後も、本計画に示された基本的事項をもとに、行政と市民が協働し、また様々な主体との連携によってまちづくりを進めていく

再生計画の詳細は本編・市のホームページをご覧ください。

(市のホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/toukaido/hodogayamirai/>)

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげる

まち・みち再生計画～概要版～



東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画とは

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画（以下、再生計画）は、旧東海道「保土ヶ谷宿」において中世から現代にかけて積み重ねられてきた道筋とそれらに関連する資源を活かし、地域に愛され地域資産として継承されるとともに、活性化を促す道路づくりと拠点づくりを地域とともに進めていくための、「旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生基本構想（以下、基本構想）」を具体化する計画として定めました。

既に事業化している国道1号（保土ヶ谷橋工区）の整備計画等をはじめとする具体計画を包含する計画として、今後のみちづくり事業を実施するにあたっての、基本方針とするものです。

基本構想（平成27年3月策定）（抜粋）

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

旧東海道保土ヶ谷宿周辺の、各時代において積み重ねられてきた歴史を活かしながら、地域住民や来街者等により生まれ、継承されていく“まちづくり”“みちづくり”を、以下の視点によって進めていく。

■まちづくりとみちづくりのコンセプト

【視点1】

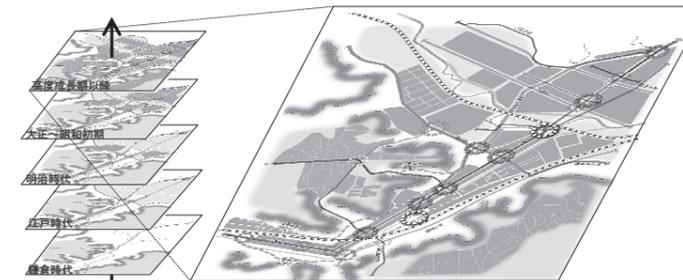
“みち”と“まち”の変遷を地域の魅力として継承する

【視点2】

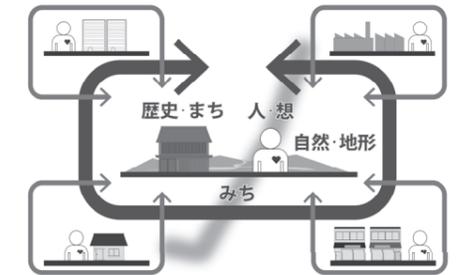
地域内外の交流を活性化させる

【視点3】

まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める



各時代の歴史の積み重ねりによるまちのかたち

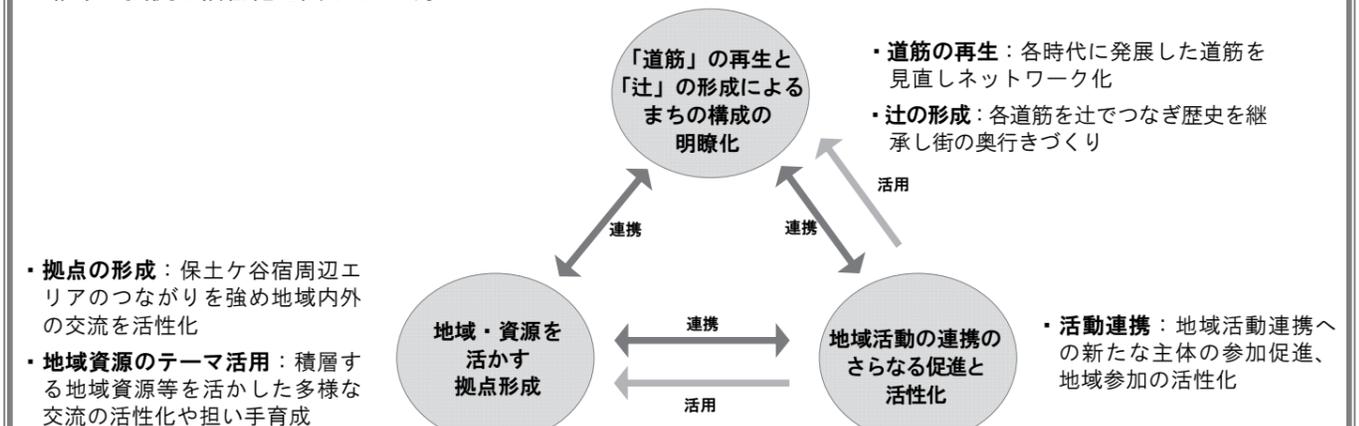


“みち”から保土ヶ谷宿地域の“まち”の奥ゆきを生み出し、地域とともに再生・継承していく

1 まち・みち再生の枠組み

歴史を活かし地域とともにつくり育てる道筋再生と拠点形成

地域住民や地域活動団体とともに、各時代の歴史の積層を活かした道筋のネットワークや拠点形成を図り、歴史の継承や交流の活性化を図っていく。



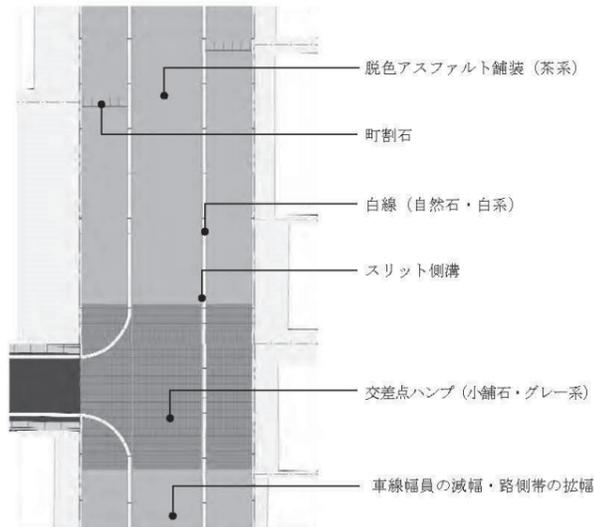
(1) 保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン

歩行者の安全性や快適性を確保しながら、各区間の道筋をつなぎ、歴史的な経緯を継承していくデザインを目指す。

① 旧東海道の道筋の連続性を確保するデザイン

■デザイン案：保土ヶ谷駅西口商店街付近の区間

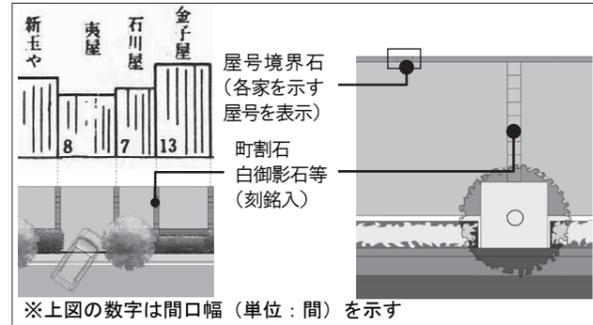
- ・継承されてきた道幅を活かした、イベント利用しやすいデザインとする



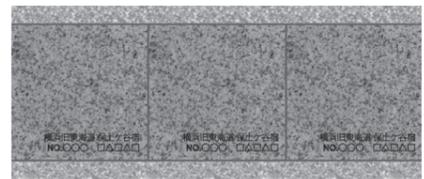
② 往時の町割を再現する町割石による連続性の強化

■デザイン案

- ・往時のまちの状況を想起できるように、往時の町割りや屋号・用途を表示する町割石・境界石を道路に埋め込む。



※上図の数字は間口幅 (単位: 間) を示す
歩道舗装デザインイメージ



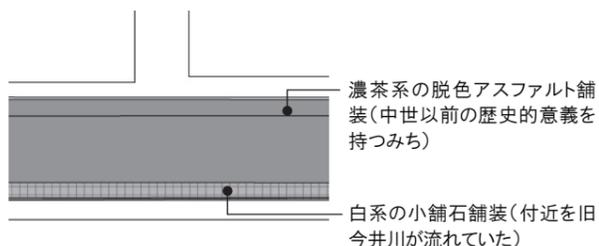
町割石のデザインイメージ (白御影石等)

(2) 各時代の道をつなぎ、街の奥行をつくる道筋・辻のデザイン

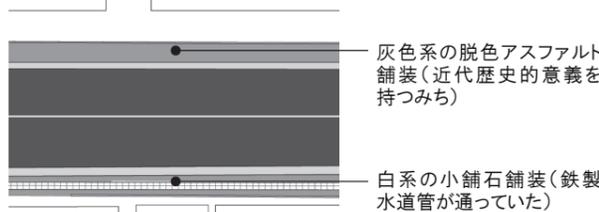
① 各時代の道をつなぎ、街の奥行をつくる道筋のデザイン

■デザイン案

- ・金沢鎌倉道：江戸と金沢、鎌倉をつないだみち



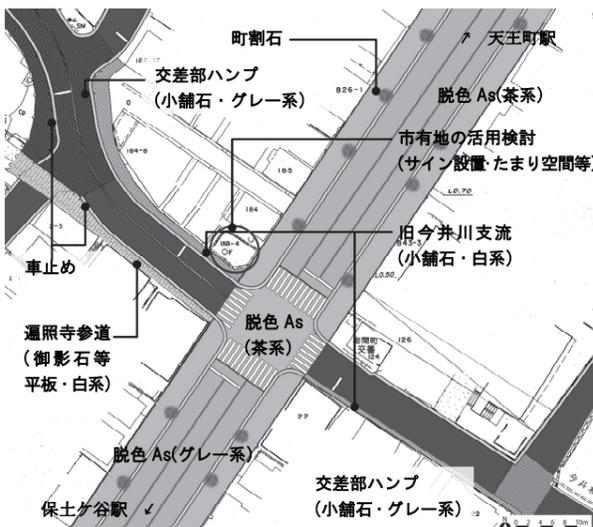
- ・水道道：日本初の鉄製水道管が通り、近代化の先駆けとなったみち



② まちへのつながりと回遊性を高めていく辻のデザイン

■デザイン案

- ・旧中橋板橋辻：月見台地区と環状1号線をつなぎ旧参道と水路が交差する旧東海道、古東海道との交差点



※この頁には、再生計画に示したデザイン案のうち、一部のみを抜粋して掲載しています。

■生活ゾーンの結節点における拠点機能と地域資源のテーマを活かした交流促進

4つの生活ゾーンと3つの結節点

A. 洪福寺松原商店街・天王町商店街ゾーン

近代に工場(紡績・ガラス等)が集積し、現在では天王町商店街、洪福寺松原商店街、イオンなどの商業施設が集積するゾーン。

B. 旧東海道・環状1号周辺ゾーン

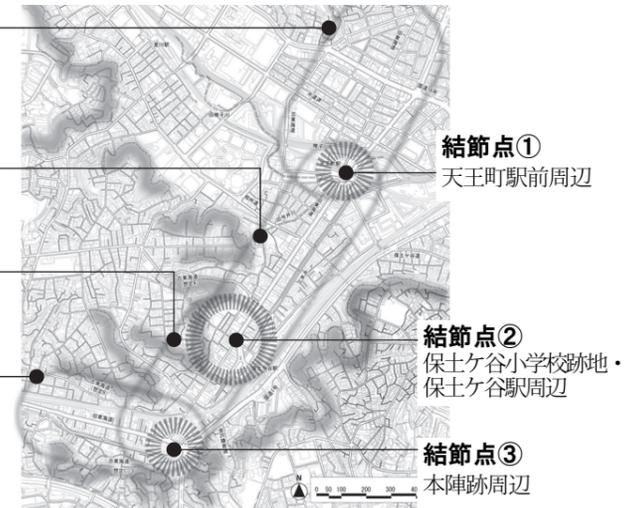
相鉄線天王町駅とJR保土ヶ谷駅をつなぐ環状1号沿道で、下町の住宅地が広がるゾーン。

C. 保土ヶ谷駅周辺・西口商店街ゾーン

JR保土ヶ谷駅西口及び保土ヶ谷駅西口商店街周辺で、旧東海道保土ヶ谷宿の中心区域であったゾーン。

D. 本陣跡周辺・国道1号保土ヶ谷橋工区ゾーン

国道1号沿線の、旧東海道と重複する区域で、旧保土ヶ谷本陣等の歴史的建造物等が点在する。



(1) 地域活動連携を促す支援と空間形成

旧東海道保土ヶ谷宿の歴史のほか、中世～現代に積み重ねられてきた道筋とまちの形成の歴史を活かし、まちづくり・みちづくりに関心を持っていなかった人や、興味はあるが活動に参加していない人、参加方法が分からない人たちが地域活動に関わる機会を増やすことで、保土ヶ谷宿エリアに対する意識、愛着を高めていく。

① 新たな主体(店舗・企業・学校等)の参加促進

② 団体間のつながりの創出・強化

③ 活動しやすい空間(道・沿道)づくりによる連携強化



催事への小学生の出店イメージ(①)



催事への企業の出店イメージ(①)



沿道に開けた店舗のイメージ(③)



沿道敷地活用のイメージ(③)

(2) 計画・整備・管理プロセスにおける地域との連携

みちづくり・まちづくりにおける各施設整備のそれぞれの段階において、①～④に示すような地域連携の仕組みを検討し、より効果的な方法を用いながら整備・活用・管理を図る。

① 計画・設計段階からの地域連携 ～利用者や運営者の視点の反映～

② 道路整備・施設整備における地域連携 ～まちとみちへの愛着を高める～

③ 維持管理への地域連携 ～まちとみちへの関わりの定着～

④ 暫定的な活用・整備への地域連携 ～より良い整備に向けた実験や暫定活用～



ワークショップによってニーズの把握を行った例(保土ヶ谷区)(①)



ヨコハマ市民まち普請事業を活用して市民自らが整備した例(保土ヶ谷区)(②)



松並木プロムナード水辺愛護会の清掃活動(保土ヶ谷区)(松並木プロムナード水辺愛護会HPより)(③)



学校と連携しみちにペインティングを実施している例(港北区)(④)